

内郷村報の  
六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協力を計り、總親和進歩力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事興行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

# 内郷村報

天法人則  
ニ從順ナ  
ルベシ

才、此親切!

一家は益々榮えなん

大内民惠

昭和 九年八月二十日、舊七月十一日夕刻、記者は安達郡二本松町字竹田町顯法寺なる亡妹岡村よし子の墓に詣り、それより乗合自動車で福島市に向ふ爲に、其自動車立場に發車時刻を問合せる必要が起つたので、電話のありそうな家を探してたのが、同町内「銘酒大七」の醸造元太田酒店であつた。太田家と我大内家とは、其昔親戚關係にあつた事は聞いて居つたが、故郷を出て三十年、今日に於ては何等の關係交渉なきは勿論敢て名乗りもせず、それに此日記者の服装は、洗ひざらしの麻の白飛白否風飛白ともいふべき古單衣に、綿紹の古袴をうがち、どう見ても田舎廻りの

乞食 書家といふ格好であつた。いきなり店にけいつて、「福島行乗合の時間を知らないのですが一つ電話を」といへば、店員三名が椅子に凭り、卓子を圍んで、浴衣がけの主人らしき人と話を居つた。一人の店員は直ちに受話器をとつて問合せてくれ「最終發車は七時ですが何處でお待ちになりますか」といふ「それでは恐れ入りますが、を貸していただきますか」といへば「ア、そうですか」と其旨を通じてくれ、其間に一人の店員は扇風機を持ち出して風をおくつてくれ、他の一人は其日の新聞を抱いて来て御覽なさいと見せてくれ、後はもとの通り四人の人々が前の話をつづけて居るのである。敢てわざとら

しき愛嬌を振りまくのでもなく、たゞそれが當然なすべき事を、なすもの、如何にも自然に、すらくと以上の態度をとり、待遇をしてくれたのには、一事が萬事、千客萬來、醸造に販賣に、好成績を擧ぐるに到れる、亦決して偶然にあらず、オ、これある哉此親切! 一家は益々榮えなんと、深く感激させられたのであつた。もし

しき愛嬌を振りまくのでもなく、たゞそれが當然なすべき事を、なすもの、如何にも自然に、すらくと以上の態度をとり、待遇をしてくれたのには、一事が萬事、千客萬來、醸造に販賣に、好成績を擧ぐるに到れる、亦決して偶然にあらず、オ、これある哉此親切! 一家は益々榮えなんと、深く感激させられたのであつた。もし

謹啓 殘暑難堪候處益々御健勝奉賀候 陳ば内郷村報每號御惠贈を忝うし御懇情奉謝候 社會公共事業に御努力被下候貴下の御誠意に對し深く感謝の意を表する次第に有之候 甚た僅少失禮に候へ共金一封拜呈いたし候間御受納被下候は幸甚不過之候 右得貴意度如斯御座候 敬具 昭和九年八月十三日 青沼鋒太郎

社等 第一線に立つて、一般民衆に接する所謂下級の官吏役員等の態度を見るに、其多くは未だに官僚的であり、事務的であつて、其處にうま味もすつば味もなきは勿論服装や人柄によつて應對ぶりを異にし、甚しきは其もたらせる用件の知識に乏しく、其處置に困つて居る様な人々に對して、懇切に指導して、簡便に迅速に取り

運んでやるべきを、威丈高にござりちらし、相手を困惑せしめて居る様な場面に往々出會はし、見るに見兼ねて、居中用便の勞をとつてやつた事も一再にとまらず、常に苦々しく思つて居るのである。又一般商店などに於ても、眞に顧客の便益を計るが如き親切心に乏しく、しらくしい愛嬌をこそふりまけ、後はどうでもたゞ其時賣りつけさへ

運んでやるべきを、威丈高にござりちらし、相手を困惑せしめて居る様な場面に往々出會はし、見るに見兼ねて、居中用便の勞をとつてやつた事も一再にとまらず、常に苦々しく思つて居るのである。又一般商店などに於ても、眞に顧客の便益を計るが如き親切心に乏しく、しらくしい愛嬌をこそふりまけ、後はどうでもたゞ其時賣りつけさへ

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

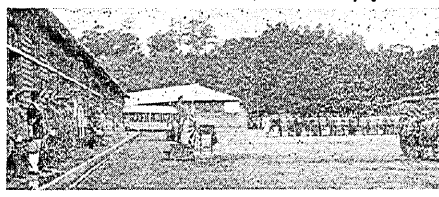
本紙發行は大内一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

# 簡閱點呼の記

炭礦分會長 上原四郎  
理事 高野金作

非常時一九三五年を明年に控へる昭和九年度簡閱點呼は八月十一日高坂尋高校庭に於て非常時氣分横溢嚴肅裡に執行せられた此日我炭礦分會受閱者總員一二二名は淺野翁頌德記念館前に集り喇叭を先頭に歩武堂々會場に入り

村方内郷分會受閱者二五〇名と共に警察署長村長在郷將校等有志各位の列席の下に午前七時三十分より



簡閱點呼の光景

一、勅諭勅語の奉讀  
二、講演  
三、講演  
が有り在軍會歌を合唱し「日の丸辨當」の會食をなし零時三十分解散した。因に我警城炭礦分會は創立尙日淺く第一回の點呼受閱であつたにも拘らず特に執行官より模範分會の賞詞を賜はり講演の結果も極めて良好の成績を收め得たことは分會無上の光榮であると同時に分會設立の精神の一端を果し得た点に就ては創立當初より絶大なる御後援と御指導とを垂れられた最高顧問の方々始め幹部各位の誠實眞摯なる高配の賜として満腔の敬意を表し衷心より感謝する次第であります。尙此の機會に於て一言申上げて置きたい事は郷軍の目的は「軍人精神の鍛練」と「軍事能力の増進」を以て本則として居るのであります。即ち軍に從つては國家の干城となり、郷に在つては忠良なる臣民たるの資質を涵養するに於てあります。幸にして今次點呼に於て

我が分會員は眞の軍事能力の増進を遺憾なく發揮して前述のやうな良果を收め長くも聖旨の萬分の一に報い奉ることが出来得たのであります。

然し之を以て能事終れりとするべきではないのであります。即ち良民たるの使命を果たさなければならぬ。それには堅實なる思想の涵養に努むると同時に忠實温健なる鑛山從業員となり延いて國民思潮をして帝國建軍の本義に則らしめ皇民たるの觀念と意識とを強調し以て涸濁低迷せる現下思想の餘弊を根絶せしむるやう努むべきであると思ひます。「忠實なる鑛山從業員は亦眞の産業人であり眞の産業人たる者は即ち良民たるの有資格者である」ことを力説し、最後に本點呼執行の爲め半ヶ月餘風雨と酷熱と疲勞を冒して練習教育の爲御努力下された幹部各位に深甚の謝意を表して擧げさせていただきます。

八月三十日村會を開き、八月三十一日任期満了したる收入役齋藤彌一氏の後任として、同じく同氏を推薦決定した。氏は質實勤勉能く

## 方面委員會

### 其取扱事項

八月二十八日午後一時より村役場に例會を開催、故宮本委員後任推薦の件其他重要案件を審議決定する處あつた。次に八月申取扱事項は左の通りである。

## 從軍勇士の叙勳

滿洲事變に從軍して偉功をたてたる本村關係勇士に對して、此程左記の通り叙勳の御沙汰があつた。但し之は現在記者の手許に集つた材料より採録したもので、これに洩れたる分及今後發表の向は追つて掲載報道する事にする。

- 勳八等白色桐葉章 伊藤利雄
- 勳八等白色桐葉章 大竹 義雄 鈴木 正吾
- 遠藤 正直 猪狩 保
- 市川 正義 鈴木 常松
- 遠藤 英男 菅野 要一
- 中塚 貞治 小幡山三郎
- 三富 竹藏 山野邊正直
- 鈴木 巳喜男 柳沼 淺藏
- 勳八等瑞寶章 齋藤榮太郎
- 勳八等瑞寶章 小林金次郎
- 熊坂 源一 井砂 正雄
- 志賀 武弘 (順序不同)
- 勳八等瑞寶章 齋藤榮太郎

- ◎本紙贊助金寄贈芳名
- 金拾圓 平町 青沼録太郎
- 金五圓 樺太 渡部 孝一
- 金五圓 内郷 無名氏
- 金壹圓 四倉 松崎 德茂
- 金貳圓 小野田 齋藤榮太郎
- 金參拾錢 福島 今田 四郎
- 金五拾錢 同 小泉 茂一
- 金五拾錢 東京 山地德三郎

## 教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内 民惠 著

## 警炭殉職者精霊追悼會

警城炭礦に於ては例年の通 盛況、實に縣下無双、恐らく全國にも其例少なからう

八月二十日(舊七月十四)

研究發表に於ては、大橋訓導の「義務教育に於ける訓練の位置」と題する頗る有益なる研究の熱烈眞摯なる

本縣 事試驗場神谷分場講習修了者百三十余名より成る中堅農民同窓會員中本村出身者は既に十余名に達し

書道會

書道の修養に將た實用に其裨益する處多大なるはこゝ

發行所 日本評論社

東京三橋三丁目

取次所 内郷村報社

五、密集教練の順序により午前十時五十分校庭に於ける查閱を終り十五分休憩の後第二會場に行き詰れる現代の教育制度を整理して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校學に違あらず。味と未だ一人の抗議者も現れず。

の干城となり、郷に在つては忠良なる臣民たるの資質を涵養するにのみあり幸にして今、点呼に於て

月三十一日任期満了したる收入役齋藤彌一氏の後任として、同じく同氏を推薦決定した。氏は質實勤勉能く

- 遠藤 英男 菅野 要一
- 中塚 貞治 小幡山三郎
- 三富 竹藏 山野邊正直
- 鈴木 已喜男 柳沼 淺藏
- 金貳圓 小野田 齋藤榮太郎
- 金拾圓 福島 今田四郎
- 金五拾圓 同 小泉茂一郎
- 金五拾圓 東京 山地徳三郎

### 教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民惠 著  
（四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢）

行き詰れる現代の教育制度を整理して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校學に違あらず。味と未だ一人の抗議者も現れず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年の御體験と實地ノ御試練とを以て、眞實國ノ大精神ヲ拜味仕り不思議ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社  
東京三橋三丁目  
取次所 内郷村報社

### 磐炭殉職者精靈追悼會

磐城炭礦に於ては例年の通り八月二十日（舊七月十四日）午前九時より瑞芳寺に於て左の順序により、創業以來の殉職者百四十九名の爲め、鄭重懇篤なる追悼會を舉行した。

式次 一、遺族着席 二、僧侶着席 三、司式者挨拶（上原勞務首席）五、祭文讀誦（所長代理濱崎部長）六、遺族焼香。



磐炭大盆踊の装束部一

### 縣下無双

#### 大盆踊

一巡二時間  
磐城炭礦では舊盆十四日より三日間、宮山神山、金坂運動場の二ヶ所に大櫓を建て、數十の裝飾電燈を点じ、二十余人の勞務係員、百數十人の親和會及青年會の幹部が出動して、之が指揮監督の下に一大盆踊が舉行せられ、古今東西、社會百般の變裝假裝せる老若男女數千の踊手が金山より參加し一周二時間を要するといふ

### 教育研究會

七月二十日午前八時より夕刻迄、第三小學校に於て石城郡教育第三區第一方部會の教育研究會を開催、自由參觀、共同參觀、研究發表、教授批評の四段に行はれ、自由參觀に於ては全校訓導の教授自由參觀、共同參觀に於ては、尋五山名訓導の唱歌教授并に尋六渡部訓導の讀方教授を共同參觀し、

### 内郷女子青年會

七月十五日同會に於ては、武藤擔任が中心となつて、長谷川顧問、國分講師、北島技手等の參列の下に、高野入の湯に遠足を兼ねて第一回總會を開き、諸般の打合せを行ひ、爾後例によつて生花裁縫料理禮式等各種の講習會を開催、歩一歩所期の目的に向つて進みつつあるが、尙九月三日の日曜日より、早朝より山神社前に集合、全境内の洒掃をなし、軍國女性の意氣を發揮するべく手旗現字通信の練習を開始した。

### 御殿俱樂部

高坂坑御殿に於ては、五百余圓を投じて、職工風呂跡を三十六疊敷の大廣間に有する俱樂部に改造し、此程落成したるを以て、九月九日午前九時より三澤坑長石橋書記以下各役員各役付各商店主等參列の下に開部式を舉行了。猪狩擔任の挨拶、三澤坑長大内七年會長の祝辭、熊谷世話役の答辭等あつて閉式、記念撮影を行つて解散した。近くは住吉坑、遠くは平方面迄一望の下に見渡し、設備亦之に伴ひ、磐炭第一の俱樂部となつた。

### 御殿棋碁大會

會員五十余名を有する同會は九月九日御殿俱樂部開部式後、同部に於て大會を開催、盛會裡に夕刻閉會した

### 書道會

書道の修養に將た實用に其裨益する處多大なるは、こゝに改めて唱道する迄もない事であるが、磐炭に於ては濱崎部長會田院長等の有力家が、斯道振興に盡力する處から、金山各方面に熱心なる研究者現はれ、石田修二氏を磐城支部長とする浪越書道會（佐分移山氏主幹）は九十五名の會員を算し

### 採炭夫募集

一、各坑を通じて多數募集  
一、十八歳以上三十五歳以下、身体検査人物考査の上採用  
三、希望者は各坑勞務係及七年會に申込むべし  
但紹介者に薄謝贈呈の規定あり  
昭和九年九月  
磐城炭礦々業所

磐城炭礦を見る

慶應義塾大學醫學部學生

秋山將義、安齋博、柳田敏也、西新助、齋藤義雄

七月廿二日初めて磐城炭礦鑛鑿坑に入坑、それより約二週間炭鑿生活を...



諸君の生入

坑内は地上で考へられるものよりも余程其の趣を異にし、体験者でないれば、如實に想像する事は至難である...

通氣可なるが、側坑及び切端は殆んど無風にして、空氣の性情が悪く、長居すると呼吸困難、頭痛を催す...

以上は吾々の坑内坑外に關する體檢、觀察、實驗の興味ある題目が展げられて居る。吾々は捲上重來の日を期して擱筆する次第である。

キヤンピングの記

磐城青年會本部書記 高野金作



小名濱海岸に於ける青年會員

待望久しかった我磐城青年會今日の海岸キヤンピングは八月十一日(土)午後七時小名濱海岸に於て...

内郷村報の

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。二、村内公私各機關の活動状況を報導し...

四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

本社發行は大内一家の事業にして、其の社報は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本報定價 一、五錢 二、一錢 三、五錢 四、一錢 五、五錢 六、一錢 七、五錢 八、一錢 九、五錢 十、一錢

内郷村報

天法人則 從人順ナ

社等 第一線に立つて、一般民衆に接する所謂下級の官公吏役員等の態度を見るに、其多くは未だに